

凡例

1. 本書は、「変貌する市川市域」をテーマに、昭和戦後期以降、二一世紀初頭を対象としているが、必要に応じて前後の時期についても叙述した。
2. 本文は、原則として常用漢字・現代かなづかいを用いた。読みにくいと思われる語句や人名については、節の初出にふりがなを付したが、読み方が判明していないものについては省略しているものもある。
3. 旧町村名や名称変更された機関・施設については、原則として現行名を（現・―）と付した。
4. 施設名についてはできるだけ正式名称を用いたが、県立、市立等を省略して用いた場合もある。たとえば「市立市川歴史博物館」のようにたびたび出てくる場合は「歴史博物館」などと略して用いた。企業名・機関名称等については「株」「株式会社」等の表記を省いた場合もある。
5. 本文中で、市川市史編纂委員会編『市川市史』全七巻（市川市、一九七一年～一九七五年）を典拠とする場合は、『市川市史』と略記した。
6. 年代表記は原則として西暦（太陽暦）とし、西暦年に続けて（―）内に和暦を付記した。また、一八七二（明治五）年以前は太陰太陽暦（旧暦）を使用した。
7. 本文中の引用史資料は、括弧を付して示した。長文にわたる場合には、前後一行を空け、二字下げで引用した。また、引用部分において、算用数字を漢数字に、句読点の付与、改行など様式を適宜整え、明らかに誤植が認められる場合には、訂正して引用したことがある。
8. 本文の記述については、多岐にわたる研究成果を援用したが、巻末に主な参考文献を示し、典拠の記述を省略した。また、参考文献・引用の書誌情報は一覧で記載した。
9. 写真や図表は、節ごとに一括して通し番号を付した（例：第一章第二節の五番目の場合は、「11215」）。なお、所蔵が市川市であるものについては、所蔵情報を省略した。
10. 敬語・敬称については多くはこれを省略した。
11. 引用・掲載した史料に、今日の観点から見ると、社会的差別に該当する不適切な語句や表現が含まれていることがあるが、時代背景を考慮しそのままとした。
12. 本書の執筆者および協力者・協力機関、市史編纂関係者名簿を巻末に一覧で記載した。